

S I D R

(滋賀県感染症情報)

SHIGA Infectious Diseases Report

〈月報〉
平成 20年 9月
(第36～39週)

発行年月日：平成20年(2008年)10月15日
発行 行：滋賀県衛生科学センター内
滋賀県感染症情報センター
電話 077-537-7438 FAX 077-537-5548

1) 全数報告の感染症(一類～五類)

全国の医療機関において、医師が感染症法で定められている一～四類および五類感染症に該当する患者を診断したとき医師は保健所に届出ることになっています。このことを全数報告といいます。また、届出により全国または滋賀県で発生している感染症法で定められた一～四類および五類感染症を把握することができます。

感染症 類型	疾 病 名	平成 20年		平成 19年		感染症 類型	疾 病 名	平成 20年		平成 19年			
		1～8月	9月	1～12月	9月			1～12月	1～8月	9月	1～12月	9月	1～12月
一類	エボラ出血熱	0	0	0	0	四類	ニパウイルス感染症	0	0	0	0		
	クリミア・コンゴ出血熱	0	0	0	0		0	44	0	16	0	98	
	痘そう	0	0	0	0		0	0	1	0	1	0	10
	南米出血熱(*)	0	0	0	0		0	0	0	0	0	0	
	ベスト	0	0	0	0		0	0	0	0	0	0	
	マールブルグ病	0	0	0	0		0	0	0	0	0	0	
	ラッサ熱	0	0	0	0		0	0	4	0	0	0	1
二類	急性灰白髄炎	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0		
	結核(*)	186	17,954	21	2,008	178	20,151	0	0	0	0		
	ジフテリア	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
	重症急性呼吸器症候群	0	0	0	0	0	0	0	2	0	3		
	鳥インフルエンザ(H5N1)(**)	-	-	0	0	-	-	1	31	0	9	1	52
三類	コレラ	0	37	0	5	0	12	0	4	0	0	0	
	細菌性赤痢	0	216	0	23	1	450	0	3	0	1	12	
	腸管出血性大腸菌感染症	38	2,809	10	688	55	4,586	0	0	0	0	0	
	腸チフス	0	31	0	8	0	47	0	0	0	0	0	
	パラチフス	0	22	0	1	1	22	0	0	0	0	0	
四類	E型肝炎	0	32	0	1	1	54	5	578	4	89	8	655
	ウエストナイル熱	0	0	0	0	0	0	0	5	0	9	0	34
	A型肝炎	3	126	0	15	1	154	0	0	0	0	0	0
	エキノコックス症	0	8	0	2	0	16	6	578	0	62	15	781
	黄熱	0	0	0	0	0	0	3	156	0	15	2	231
	オウム病	0	5	0	0	0	30	1	133	0	10	2	216
	オムスク出血熱(*)	0	0	0	0	0	0	0	6	0	1	0	6
	回帰熱	0	0	0	0	0	0	1	104	1	9	4	148
	キャサナル森林病(*)	0	0	0	0	0	0	1	82	0	11	1	96
	Q熱	0	2	0	0	0	7	10	996	0	115	9	1,449
	狂犬病	0	0	0	0	0	0	1	54	0	8	1	56
	コクシジオデス症	1	2	0	0	0	3	0	10	0	0	0	17
	サル痘	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0
	腎症候性出血熱	0	0	0	0	0	0	1	538	0	76	2	714
	西部ウマ脳炎(*)	0	0	0	0	0	0	3	79	2	9	0	88
ダニ媒介脳炎(*)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
炭疽	0	0	0	0	0	0	0	56	0	6	0	80	
つつが虫病	0	121	0	3	0	370	2	271	0	5	-	-	
デング熱	1	51	0	17	1	89	38	10,711	0	99	-	-	
東部ウマ脳炎(*)	0	0	0	0	0	0							
鳥インフルエンザ	0	0	0	0	0	0							

滋賀県における全数報告感染症の概要(9月)

< 結核 >

性別：男性 13名、女性 8名
 類型：患者 19名
 無症状病原体保有者 2名
 病型：肺結核 17名、その他の結核 4名

< 腸管出血性大腸菌感染症 >

性別：男性 4名、女性 6名
 年齢：0～9歳 2名、10～19歳 1名
 20～29歳 3名、40～49歳 1名
 50～59歳 2名、60～69歳 1名
 血清型・毒素型：
 O157・VT1 1名
 O157・VT2 5名
 O157・VT1&VT2 4名

< レジオネラ症 >

性別：男性 4名
 年齢：59歳 2名、73歳、84歳
 推定感染経路は水系感染 1名、不明 4名で、推定感染地域は全員日本国内です。

< クロイツフェルト・ヤコブ病 > 女性 42歳

推定感染経路および推定感染地域は不明です。

< 破傷風 > 男性 63歳、男性 66歳

推定感染経路は創傷感染および針等の鋭利なものの刺入による感染です。推定感染地域は2名とも日本国内です。

(*)：平成19年4月1日から集計 -：平成19年は定点把握対象疾患のため未集計
 (***)：平成20年5月12日から集計 -：平成19年および平成20年1月～5月11日は未集計

*1 検査法第26条の3に基づく検査所長から滋賀県知事への通知分1件を含む

2) 定点把握の対象となる五類感染症

感染症発生動向調査事業に係る報告のうち、滋賀県が指定した「指定届出機関」を定点医療機関(定点)といい、その定点から報告される感染症を定点把握対象感染症といいます。また、定点当たり患者数とは、一週間を単位として一カ所の定点から何人の患者が報告されているかを示したものです(患者報告数/定点医療機関数)。例えば、一つの疾患(インフルエンザ等)について、一週間に53カ所の定点から総数53人の報告があれば、定点当たり患者数は1.00となります(疾患により定点数は異なります)。また、疾患によりインフルエンザ定点、小児科定点、眼科定点および基幹定点に分かれています。

9月の概要

<インフルエンザ>

第36～39週(9/1～9/28)におけるインフルエンザの報告はありませんでした。

<小児科定点疾患>

各疾患の発生状況については疾病別定点当たり患者数のグラフに示すとおりです。夏季に多く発生していた咽頭結膜熱(プール熱)、A群溶レン菌咽頭炎、水痘、手足口病およびヘルパンギーナは先月より減少していました。また、冬季に増加傾向を示す感染性胃腸炎および流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)は先月よりやや多く発生していました。

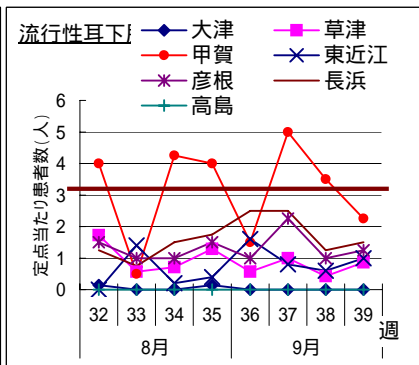
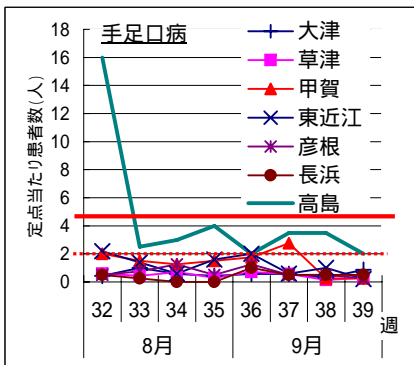
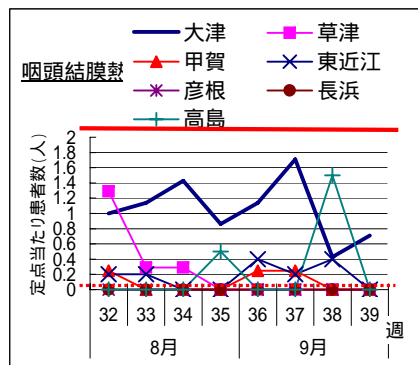
警報・注意報システムによる警報および注意報の疾患別発生状況は咽頭結膜熱(プール熱)では大津で第21週(5/19～5/25)以降、第39週まで連続して警報終息基準値(0.1)を超えていました。手足口病では高島で第26週(6/23～6/29)以降、第39週まで連続して警報終息基準値(2.0)を超えていました。また、流行性耳下腺炎では甲賀で第37～38週(9/8～9/21)の間、再び注意報発生基準値を超えていました(下記グラフ参照)。

<眼科定点疾患> <基幹定点疾患>

眼科定点疾患である流行性角結膜炎は先月とほぼ同様で、急性出血性結膜炎の報告はありませんでした。また、基幹定点疾患である細菌性髄膜炎は大津および長浜から、無菌性髄膜炎およびマイコプラズマ肺炎は大津、東近江および長浜から報告されていました。クラミジア肺炎の報告はありませんでした。

感染症発生動向調査に基づく流行の警報・注意報システムによる 警報・注意報発生状況 (平成20年第32～39週)

<各定点の対象疾患>



— 警報開始基準値:
定点当たり患者数 2.0
- - - 警報終息基準値:
定点当たり患者数 0.1

— 警報開始基準値:
定点当たり患者数 5.0
- - - 警報終息基準値:
定点当たり患者数 2.0

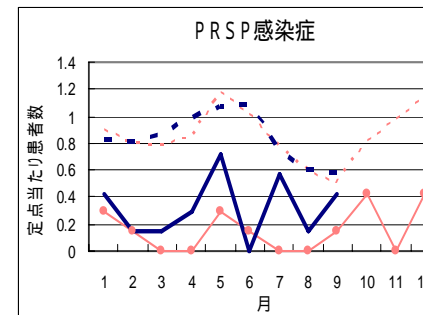
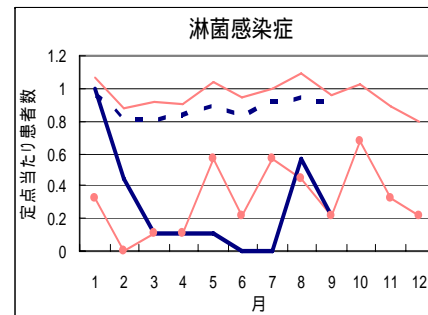
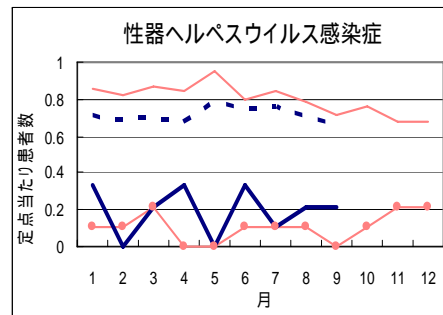
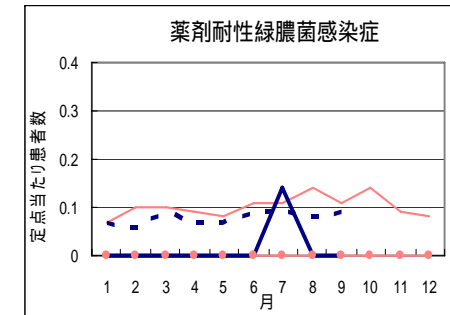
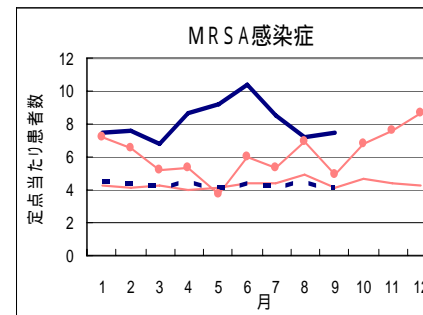
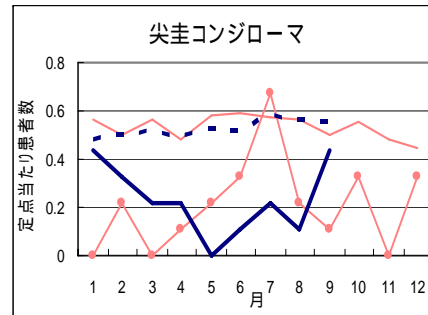
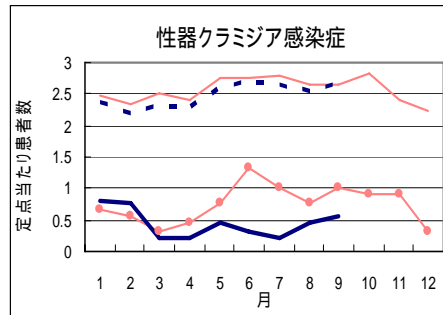
— 注意報発生基準値:
定点当たり患者数 3.0

定 点	疾 患 名
インフルエンザ定点	インフルエンザ
小児科定点	RSウイルス感染症、咽頭結膜熱 A群溶レン菌咽頭炎、水痘 感染性胃腸炎、手足口病 伝染性紅斑(リンゴ病)、百日咳 突発性発しん、ヘルパンギーナ 流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)
眼科定点	急性出血性結膜炎 流行性角結膜炎
基幹定点	細菌性髄膜炎、無菌性髄膜炎 マイコプラズマ肺炎 クラミジア肺炎(オウム病を除く)

全国集計などの詳細な集計結果は、**国立感染症研究所感染症情報センターのホームページ**(<http://idsc.nih.go.jp/index-j.html>)において公表されています。

3) 性感染症定点および基幹定点における疾病別発生状況(平成20年9月)

疾患名	区分	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
性器クラミジア感染症	罹患数	7	7	2	2	4	3	2	4	5				36
	定点当たり	0.78	0.78	0.22	0.22	0.44	0.33	0.22	0.44	0.56				3.99
性器ヘルペスウイルス感染症	罹患数	3	0	2	3	0	3	1	2	2				16
	定点当たり	0.33	0	0.22	0.33	0	0.33	0.11	0.22	0.22				1.76
尖圭コンジローマ	罹患数	4	3	2	2	0	1	2	1	4				19
	定点当たり	0.44	0.33	0.22	0.22	0	0.11	0.22	0.11	0.44				2.09
淋菌感染症	罹患数	9	4	1	1	1	0	0	5	2				23
	定点当たり	1.00	0.44	0.11	0.11	0.11	0	0	0.56	0.22				2.55
メチシリン耐性 黄色ブドウ球菌感染症	罹患数	52	53	48	61	64	73	60	50	52				513
	定点当たり	7.43	7.57	6.86	8.71	9.14	10.43	8.57	7.14	7.43				73.28
ペニシリン耐性 肺炎球菌感染症	罹患数	3	1	1	2	5	0	4	1	3				20
	定点当たり	0.43	0.14	0.14	0.29	0.71	0	0.57	0.13	0.43				2.84
薬剤耐性緑膿菌感染症	罹患数	0	0	0	0	0	0	1	0	0				1
	定点当たり	0	0	0	0	0	0	0.14	0	0				0.14

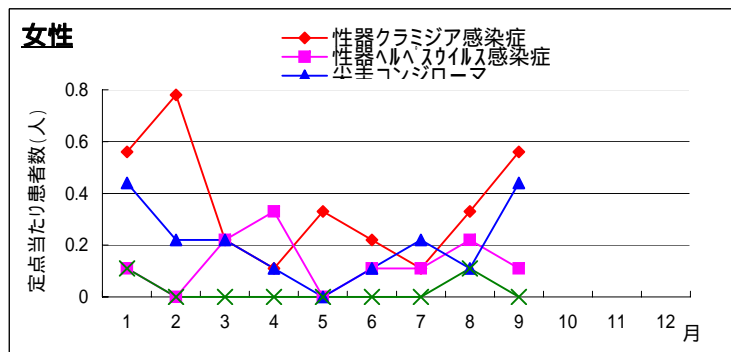
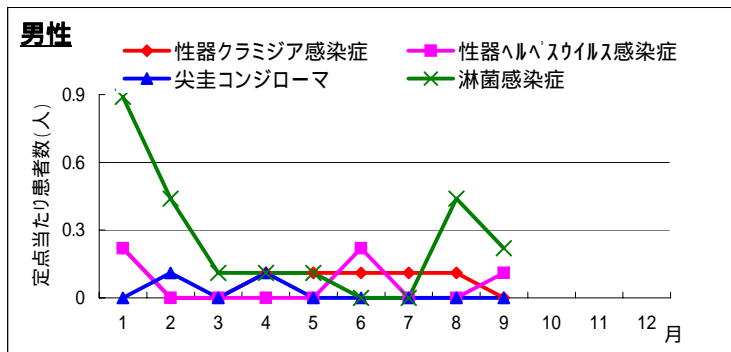


戻る

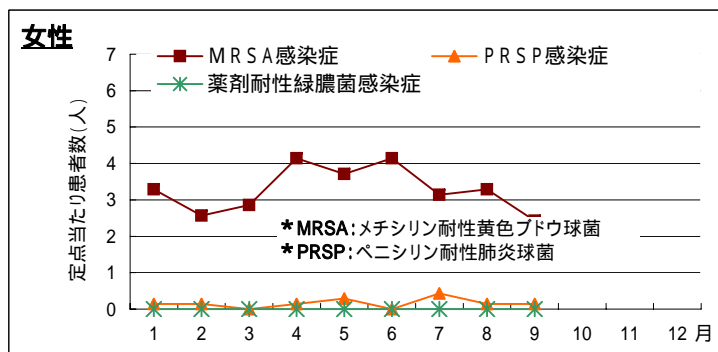
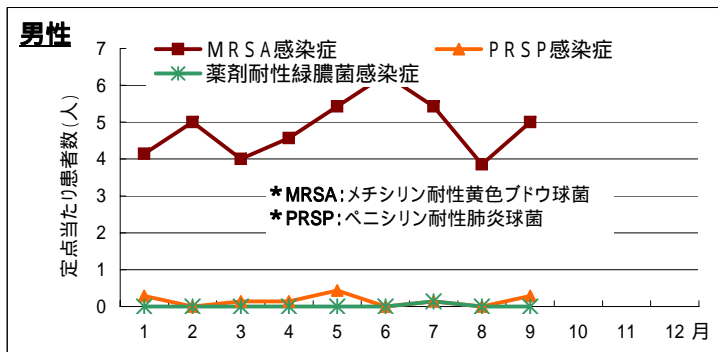
H19 { 滋賀 ●●●
全国 ————
H20 { 滋賀 ●●●
全国 ●●●●●

MRSA:メチシリン耐性黄色ブドウ球菌
PRSP:ペニシリン耐性肺炎球菌

性感染症定点における疾患別発生状況 (H20.9)

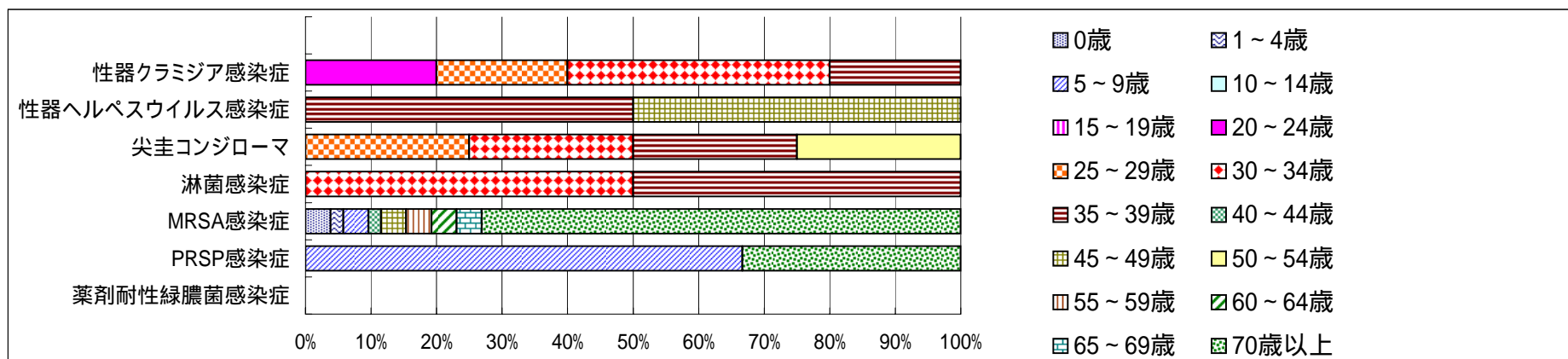


基幹定点における疾患別発生状況 (H20.9)

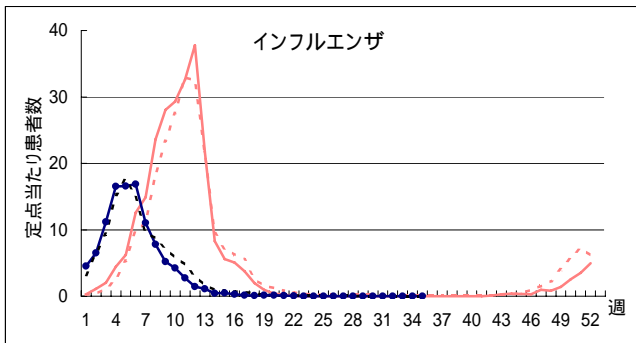


性感染症定点および基幹定点における疾病別発生状況を先月と比較すると、淋菌感染症は減少していますが、他の疾患については増加または横ばいとなっています（詳細については性感染症定点および基幹定点における疾病別発生状況のグラフ参照）。
各疾患の月別・性別発生状況は左記のグラフのとおりです。特に性器クラミジア感染症および尖型コンジローマでは女性で増加しています。また、性感染症疾患（4疾患）における年齢別発生割合は、男女ともに30～34歳および35～39歳で多くなっています。

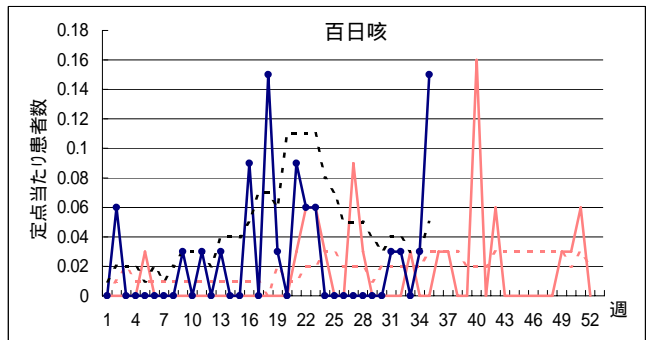
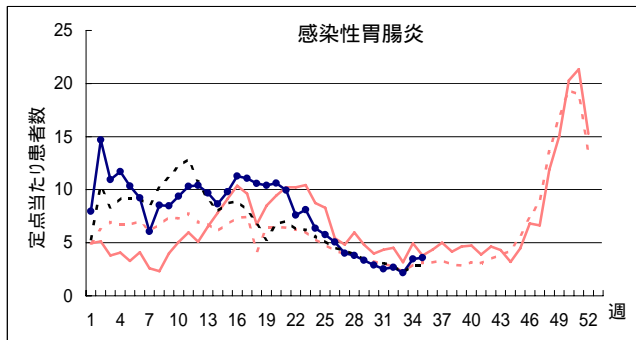
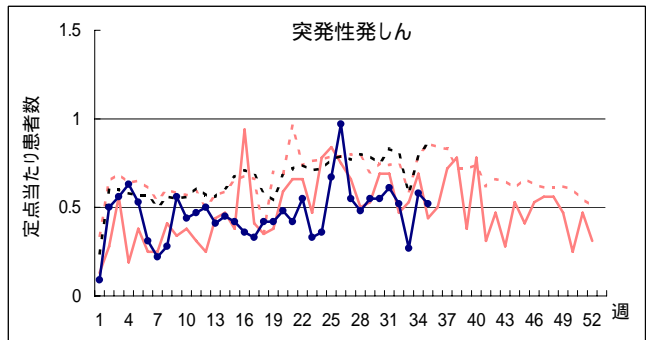
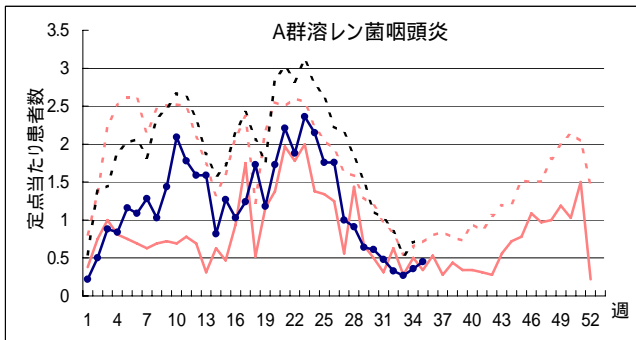
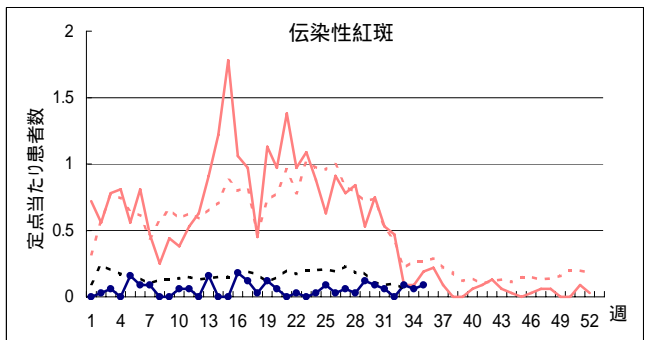
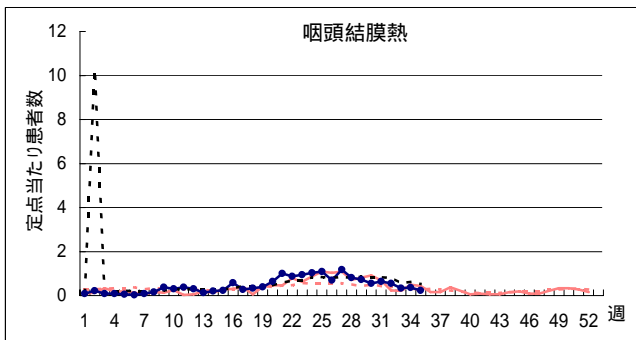
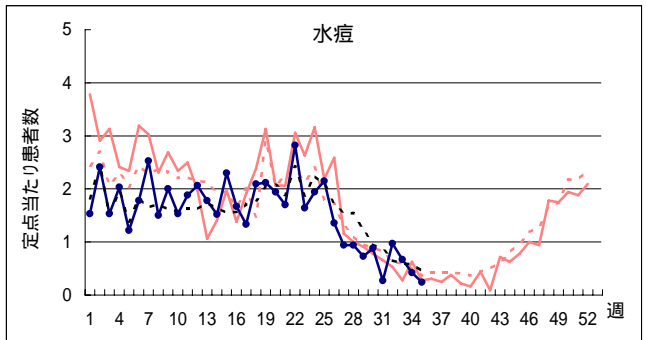
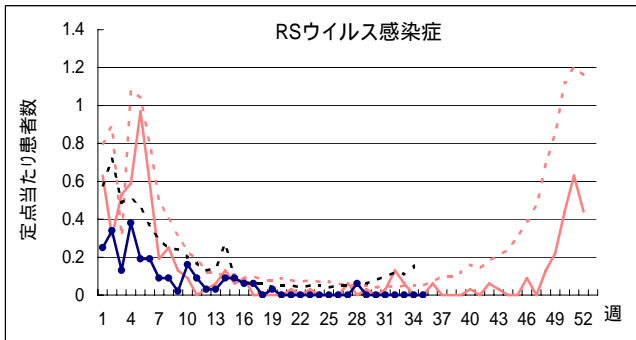
疾患別・年齢別発生状況 (H20.9)



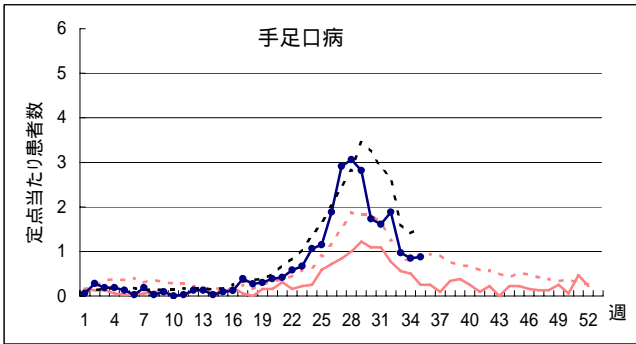
疾病別定点当たり患者数(平成20年第35週、H19.12.31~H20.8.31)



H19 { 滋賀 (solid red line)
 全国 (dotted red line)
 H20 { 滋賀 (solid blue line)
 全国 (dotted blue line)



疾病別定点当たり患者数(平成20年第35週、H19.12.31～H20.8.31)



H19 { 滋賀 ————
 全国
 H20 { 滋賀 ●—●—
 全国

